

# 帯広畜産大学同窓会報

第31号 令和6年7月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

## 会長挨拶

帯広畜産大学同窓会会長  
三津原 勝  
(昭和55年農業工学科卒)



同窓生の皆さん、お変わりなくお過ごしでしょうか。さて、今年正月早々に能登半島地震が発生し、正月気分も吹き飛んだ年明けとなりました。石川県を中心に大きな被害が発生し、同窓生の皆さんの中にも被災された方がいらっしゃるとお聞きました。記憶にまだ新しい東日本大震災や毎年のように発生する台風被害など、わが国は自然災害から逃れることのできない国なのだかと改めて考えさせられています。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、北陸地域全体の早い復興をお祈りいたします。

そんな中ではありますが、コロナが落ち着いた状況であることから、全国の各支部においては、以前と同様に同窓会が開催されるお知らせをいただいています。十分感染などに留意しながらも楽しい交流の場としての復活を歓迎したいと思います。

さて、本同窓会では会員の名簿作成が大きな課題としてありました。個人情報に関する警戒感などから、同窓会名簿の作成が一段と困難となり、同窓会報の発送や各種お知らせの通知に支障をきたしておりました。また同窓会のホームページについても管理運営が行き届かなかったことから更新に手が回らない状況でした。

昨年、長澤学長のお力添えにより、大学内に『同窓会支援室』を設置していただき、大学の業務として名簿整理やホームページ更新などに対しご支援をいただけることとなりました。現在、おおよそ月1回のペースで打ち合わせを行っており、同窓会としても「何ができて」「何に手を貸してほしい」といった点を整理して取り組んでいきたいと考えております。

また、今年もホームカミングデーが10月12日(土)に開催されます。昨年も多くの同窓生にお集まりいただき、楽しい集いの場となりました。あわせて部活や学科の仲間たちが集まるいい機会となったようです。

私も当日4つある見学コースのうち、『学生寮(旧碧雲寮)見学ツアー』に参加しました。私が過ごした碧雲寮とはまるで別世界のおしゃれな寮に変貌していました。男子の居住区域は北側の1階から4階までで、北側の全部と私が住んでいた5階南側も女子寮となっていて、改めて時代の流れを感じました。

現在、畜大は学内の施設の新設更新が進んでいて、今年牛乳工場が新設されました。12月からの稼働となりますが、どんな牛乳が生産されるのか楽しみです。

また今年度から国内初の馬の繁殖、生産飼養管理に特化した『総合ウマ科学教育プログラム』が設置されました。あわせて施設も整備され、皆さんの記憶にも残っていると思いますが、厩舎は今年新設となり、2026年度までにさまざまな馬関連の施設が整備されます。(ちなみに旧厩舎は取り壊さないとのこと)

ぜひホームカミングデーに参加して、懐かしい、そして変わりゆく母校を見に来てください。

## 大学近況報告

帯広畜産大学長  
長澤 秀行  
(昭和53年獣医学科卒)



今春も、全国から受験生が本学を目指してくれました。昨年は、佐賀県のみが0人でしたが、今年は山口県のみ0人でした。入学者は女子学生が62%を占め、留学生は29か国から69名という数字もほぼ例年どおりです。地元への学生定着率の高さは本学の特徴となっていますが、今年も約50%が北海道内に就職しています。

最近の気候変動はとどまるところを知らず、世界中で自然災害を引き起こしています。夏の暑さに関しては、地球温暖化、高温化、そしてついに昨年、国連総長が「地球は沸騰化の時代を迎えた」と宣言しました。以前は、北海道の夏は涼しいというのが定番で、日中は暑くても朝夕は涼しく、寝苦しい夜もあって数日で

した。大学においては、エアコンの設置は精密機器のある実験室や実験動物室のみで、教室や教員室への設置は文科省が認めていませんでした。しかし、最近の状況を鑑み、北海道でも小学校へのエアコン導入が進みつつあります。本学においては、図書館、大講義室をはじめとする講義室、学生ラウンジ等、順次整備を始めていますが、まだまだ教員室まで手が回らないのが現状です。ところが、教員室に先んじて、碧雲寮と萌宥寮の各階各ブロックのコモンルーム（昔の大部屋あるいは修養室に該当します）10か所にエアコンが設置されました。橋本総業ホールディングスからの寄贈によるものです。電気代は自己負担ですが、有効に活用して暑い夏を乗り切ってもらいたいものです。

先生方には我慢してもらいつつ、牛や馬の生活環境は整備されました。48年が経過した農場（現畜産フィールド科学センター）の牛舎が次世代教育モデルファームとして建て替えられました。今後、教育研究の高度化・多様化・国際化に対応し、新事業・新産業の創出に貢献する共創拠点として機能すると思えます。フィールド科学センターのセンター長は、ノーサンファームの田中秀一氏（昭和58年卒）をクロスアポイントメント制度で特任教授として着任していただきました。民間の経営手法を発揮されることを期待しています。

厩舎は、JRA および地方競馬全国協会の支援をいただき整備されました。「北の国から」や「銀の匙」のロケにも利用された厩舎は重要文化財（？）として保存しつつ、りっぱな新厩舎が竣工しました。馬術部OBの方々からも、多額の寄付をいただき感謝しています。今後、屋根付きの馬場（覆い馬場）の建設も予定しています。そのほか、乳製品工場が碧雲蔵の横に新設されています。また、食品加工実習施設は全国的にも珍しく「簡易と畜場」として承認されました。これまで以上に充実した全学農畜産実習が実施されます。

今年のホームカミングデーは10月12日に開催されます。整備された教育研究施設を直接ご覧いただきたいと思えます。本学は、「食を支え、暮らしを守る」グローバル人材の育成に向けて、教職員と学生が力を合わせて汗を流しています。同窓生の皆様には、引き続き、本学に対するご支援ご協力、よろしくお願い申し上げます。

## アフターコロナの 帯広畜産大学

帯広畜産大学副学長  
仙北谷 康



昨年4月から、教育・学生支援・入試担当の副学長を拝命しています。

畜大では、2010年に45.8%であった学部女子学生比率が、年に2ポイント弱ずつ直線的に上昇し、2019年には62.2%になりました。このままでいくと学則を変更せずとも2040年には女子大になると思われたのですが、しかし2020年には入学者の女子学生比率が突如56.7%にまで低下したため、学部学生全体の女子学生比率も60.5%となり、これ以降、女子学生比率は約60%で推移しています。

新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年。このとき畜大の女子学生比率が頭打ちになった現象をどのように理解すべきか。かつて畜大に在籍されていた同窓生の皆様、そして、現在もしくは将来、ご子息を帯広畜産大学に進学させようと考えておられるであろう皆様は、どのように思われるでしょうか。今後の畜大の入試広報活動の参考とするため、ぜひお考えをお聞かせ願いたいところです。

一方、コロナ禍対策で整備された遠隔講義システムは現在でも活用されています。基本的に講義はすべて対面で行われていますが、同時にzoomも稼働して講義が録画されており、事前に学生から申請のあった場合などはオンライン・オンデマンドで受講することも可能です。

学生からはとつぜん、昨日から入院しているとか、不幸があって帰省しているとか、就職活動中で帯広にいない、というような連絡があります。そういう場合は無論オンラインで受講してもらいます。最近は病院でもWi-Fiが自由に使えるところが多いようです。講義が葬儀の時間と重なった場合はオンデマンドということになるでしょう。このような取り組みによって、学生の学びを継続させています。

コロナで滞っていた学生の海外交流もふたたび活発化し、このとんでもない円安の中でも海外に出て行く学生は徐々に増えてきています。また逆に海外からの留学生も増加しており、共同獣医学課程も含めた大学院生は定員を十分充足し、その3分の1が留学生です。

同窓生の皆様方におかれましては、どうぞ母校に足を運んでいただき、後輩達が活躍する姿をご覧いただければ幸いです。

# 支 部 だ よ り

## 福島県同窓会の近況

福島県支部同窓会副会長

紺野 廣重  
(昭和52年獣医)

福島県支部の同窓会は、新型コロナウイルスの影響もあり平成30年の開催以降催しを見合わせていました。しかし、昨年5月に同感染症が5類へ移行されたことも相まって、令和5年11月25日5年振りに開催しました。

今回の福島県同窓会には、久しぶりの開催ということもあって例年の参加者より少数とはなりましたが、昭和36年から平成2年卒業までの会員の出席がありました。会は役員改選（新会長 菅野典雄 草地学科 昭和45年卒）に続き、今回の開催に当たってわざわざ大学から送っていただいた「学生仕込み」日本酒2種で乾杯の後に、懇親の場となりました。（日本酒は大変美味しく、皆さんからたいへん好評でした。）

当日は、大学から古林副学長、同窓会本部からは南保副会長に来ていただきました。副学長には、大学のフィールドでの活躍状況を含めた現状や、令和4年に発足した国立大学法人北海道国立大学機構の概況、更にこれからの畜大の教育、研究方向等についてお話をいただきました。

懇談は、懐かしい学生時代のことやそれぞれの近況、新しい時代に向けて変わりつつある大学の様子を古橋副学長や南保副会長に質問が出るなど、少ない人数ではありましたが大いに盛り上がりました。そして最後には恒例である畜大国歌「逍遙歌」を全員で肩を組み声高らかに歌いあげて、次回の再会を誓ってお開きとなりました。



## 新潟県同窓会の近況

新潟県支部同窓会事務局

遠山 潤  
(昭和63年獣医)

新潟県同窓会は、平成10年の設立から25年となった昨年11月12日（日）、5年ぶりとなる総会、懇親会をアートホテル新潟駅前において開催しました。総会では役員改選を行い、会長に藤田毅（S54酪農）、副会長に石田秀史（S53獣医）、佐藤克之（S56工学）会員が選任されました。大学からは同窓会副会長の福島道広先生（S58環境）、事務局長の島田謙一郎先生（H4家畜生産）をお迎えし、お持ちいただいた資料を見ながら、大きく変貌した大学の近況をお聞きました。

懇親会では碧雲蔵の日本酒を堪能しつつ、出席者からの近況報告の後、昭和、平成の大学時代、寮での思い出に話を咲かせました。新潟で帯広の話ができるのも、そして多少学年が違っても話が合うのはこの同窓会の場だけです。普段の仕事のしがらみから離れ、帯広での学生時代にタイムスリップしながら楽しい時間を過ごしました。

懇親会の最後には、本県出身の名畑武男大先輩（S22獣専）が作詞した逍遙歌を全員で声高らかに歌い上げ、再会を誓ってお開きとなりました。



## 三重県同窓会の近況

三重県支部同窓会支部長

白井 茂雄  
(昭和45年獣医)



昨年11月12日にコロナ禍のため中断していた三重県支部の懇親会を4年ぶりに津市内で開催しました。昨年9月末時点で県内の同窓生は57名ですが、残念ながら出席者は7名と少なく全員が60代以上で私が最高齢（77歳）。とはいえ私をはじめ殆どの方が未だ現役で、県職員や会社員、自営業、大学教官と異分野で要職を

務めた方ばかりでしたが、年を取ると古き良き時代が懐かしく帯広での学生時代が恋しくなるせいか、懇談では“ふじもり食堂”、“インディアンカレー”、“ばんちょう”、“炉端のあかり”など学生の頃に通った店の話や、一般教養の〇〇先生らの話で盛り上がりました。また前月（10月）に私が参加した本部の総会やホームカミングデー、帯広市内の写真を回覧して、昔とは様変わりした母校や帯広の街を懐かしく回想しました。その時の集合写真の皆さんの溢れる笑顔から楽しさが十分に伝わってきます。本当に楽しい懇親会でした。次回は2年後の予定です。

余談ですが、今年の直木賞を受賞した河崎秋子の小説「ともぐい」は、明治時代の道東の山中に住む熊狩りの猟師を主人公とした物語ですが、作者は私と同期（V45）の河崎博君（昨年7月逝去）の姪御さんです。博君は三兄弟の三男、秋子さんは長男の娘さんで、父親をはじめ三兄弟はみな畜大卒、彼女は帯広大谷高校卒だそうです。

また10年前に彼女が三浦綾子文学賞を受賞した小説「颯風の王」は、馬と運命的に強い絆で結ばれた一族の物語ですが、この中に母校が「十勝畜産大学」として登場。物語後半の主人公「ひかり」は畜大の女学生として、大学の「バケン」こと「馬研究会」とともに物語の中で重要な役割を演じています。

この作家に動物を題材とした作品が多いのは、実家が別海町で酪農を営み、本人は羊飼いの経験があることも影響しているようです。もし興味のある方は、道東、帯広、動物と縁が深い直木賞作家・河崎秋子の文学にぜひ触れてみてください。



## 関東同窓会の近況

関東同窓会支部長

澤田 拓士  
(昭和45年獣医)

コロナ禍が明け、漸く人々の動きが活発になった今年の元日に能登半島を中心に大きな地震が起きました。被災地の一日も早い復旧・復興を願っています。

さて、関東同窓会の近況ですが、今年同窓会報の

発行が早まったことで6月開催予定の総会・懇親会の報告はできず、予報をさせて頂くことにします。

まずは訃報です。関東同窓会初代会長の務台方彦さん（S18獣医）が昨年6月に逝去されました（享年101歳）。務台さんはヤクルト中央研究所所長や阪大微生物病研究会理事長など数多くの要職に就かれた方ですが、私共の関東同窓会の設立に尽力され、昭和55年から58年まで初代の会長に就かれました。その後も顧問として同窓会の運営に貴重なご助言を頂いてきました。務台さんのこれまでのご貢献に深く感謝申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

2024（令和6）年度の関東同窓会総会・懇親会は6月16日（日）12時から、5年振りに会場を銀座ライオンクラシックホールに戻して開催する予定です。母校からは長澤学長、同窓会本部からは三津原同窓会長にご出席頂く予定です。総会議事では、会員の増加と会の更なる発展を期して、会の運営にX（旧Twitter）の活用を検討する計画とともに、役員改選では若返りを図り新体制の構築を提案します。会員諸氏のご賛同とご支援を引き続き賜りたいと思います。なお、会長（支部長）澤田は今期で退任致します。長きに亘りご協力頂き誠に有難うございました。

また特別講演として、前飯館村村長の菅野典雄さん（S45草地）に「“までい”が日本を救う!？」—柔軟性、バランス、気づき—原発事故から何を学ぶ?—一心のシェアを—と題して話して頂きます。乞うご期待です。

コロナ禍前の2019年度までの総会出席者数は毎年70名前後で推移していましたが、総会再開後のこの2年間は銀座ライオンが使用できず60名を割っていました。

今回会場を銀座ライオンに戻したことで、出席者の数がコロナ禍前に戻ることを期待しましたが、それは叶わない様です。やはり会員（特に若い同窓生）の増加が喫緊の課題です。毎年ほぼ同数の同窓生が誕生し、関東にも在住・在勤・在学されている筈ですが、関東同窓会並びに同窓会本部は彼らの状況を把握できていません。Xの活用なども期待されるのですが、同窓生と母校同窓会支援室、同窓会本部との連絡が密になり、各同窓会支部に同窓生の正確な情報が伝わることを願うばかりです。これらの連携は、母校の発展の基軸ではないかと思えます。

先日開催された北海道国立大学機構シンポジウム「北海道から切り開く日本の未来」をリモートで興味深く、期待を抱いて拝聴しました。当機構が順調に機能して三大学が益々発展することを祈念します。



## 会員の声

フィールド科学センター

田中 秀一  
(昭和60年畜産経営学専攻)



本年4月よりフィールド科学センター長に就任しました昭和60年修了の田中秀一です。よろしくお願いいたします。「2つ以上の機関に雇用されつつ、それぞれの機関において求められる役割に応じて従事比率に基づき就労を可能にする」クロス・アポイント制度を活用し、畜大と日本農産工業株式会社が締結した協定に基づき、それぞれの組織で業務を行うこととなりました。この制度に期待されているのは、「大学と企業間の人材交流をより進化させること」です。私の大学での役割はフィールド科学センターの「管理と運営」になります。

出身は、帯広市の隣にある中札内村です。畑作と酪農を営む農家に生まれました。天間征先生が地域の農家を調査している話を子供のころから聞いていたことが理由で、S54年に畜産経営学科に入学します。大学院修了後、畜産用及び水産用配合飼料とペットフードを主な事業とする日本農産工業に入社しました。畜大の先輩に誘われたことが入社きっかけです。会社では、畜産用配合飼料（主にウシ）の営業や研究開発、品質保証等の分野で仕事をしてきました。現在は、音更町長流枝にあるノーサンファーム株式会社という研究開発と人材開発を担う酪農場で仕事をしています。

今回、フィールド科学センターの仕事をするきっかけとなったのは、昨年9月から3月まで畜大で開催された「農畜産プロフェッショナル経営人材育成プログラム」を受講したことだと（勝手に）思っています。仕事人生も終わりに近づいてきたので、自分のやってきたことを一度整理してみよう、というのが受講の動機でした。そこからは事が転がっていったこのような事になりました。人生の節目ごとに畜大にお世話になったこととなります。

畜大が掲げる「生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進し、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献する」という方針を実践する「場」がフィールド科学センターだと理解しています。学生・研究者・地域の期待に応えていく（応えているのか、あるいは応えていけるのかを考えると）ことが自分のミッションになります。これまでと同様に、同窓会会員の皆さまのご指導・ご支援をお願いします。

令和6年5月13日、元帯広畜産大学同窓会会長（今田忠夫氏より提供していただいた集合写真中央の方）であり、畜大ラグビー部OB・OG会「緑白クラブ」の元会長でもありました由佐壽朗先輩がご逝去されました（享年83歳）。お別れの席では、良き家庭人であり、強いリーダーシップをもった産業人であり、献身的な地域の人であったこと、在りし日の先輩の姿が改めて紹介されていました。私が畜産飼料の仕事始めてからは、十勝の配合飼料産業の歴史について丁寧に教えて頂いたことや先輩の会社が取り扱う製品を我々の工場で作ることになった際にビジネスとしてのやり取りをさせて頂いたことを思い出します。

しかしながら、何と言っても先輩の思い出は、畜大のラグビーグラウンドにあります。浅黒い顔・堂々とした体躯・でっかい声の圧倒的存在感のOBが（当時の）土のグラウンドに仁王立ちでいるのを見たときの新入部員の心の動揺を察してください。「これはヤバい…（心の声）」。

そんな心配は束の間でした。いつも笑顔で優しく接して頂きました。良いプレーができたときは褒めて頂きました。たくさんご飯を食べさせて頂きました。強いときも弱いときも、男子学生が少なくなって単独チームで試合をするのが難しくなった最近になっても、グラウンドに足を運んで現役を応援して頂きました。心から感謝しています。ありがとうございました。今頃、天国のグラウンドで桜のジャージを着て走っていると思います。心よりご冥福をお祈りいたします。



## 開拓者魂で頑張ろう

寺口 信生  
(平成元年農産化学)



H1農産化学科卒業の寺口です。大学では微生物学について学び、新卒で余市ワインに就職しました。最近では国産ワイン、日本酒が大ブームになっていますが、北海道内の各社では同窓生が杜氏やワイナリーの責任者として働いています。また、余市が特に人気になっているのを見ると元気が出ます。

私は1995年、30歳になるのを前に転職を決意し、ニュージーランド（以下NZ）にワーキングホリデーで

1年間過ごした後、まだ7店舗しかなかった(株)成城石井に入社し、ワインバイヤーとして、また後年は関連の輸入会社社長として通算20年働きました。そして2017年に50歳になったのを機に、以前過ごしたNZで新たな挑戦としてワイン造りに再び取り組んでいます。NZは日本の70%ほどの面積ですが、国民は500万人と北海道と同じくらい。その半面羊が2,500万頭以上飼育されている酪農王国です。実は北海道で売られているジギスカン肉の多くはNZ産ですし、プロセスチーズの原料となるチーズもNZから輸入されています。気候は北海道と似ていてとても過ごしやすいところです。

最初の2年はいくつかのワイナリーでセラーハンドとして働きながらワインの現場について学び、2019年からはモアナパークワイナリーで自らのブランドMUTU“睦”をリリースしました。おかげさまで日本でも販売し多くの皆様楽しんでいただいたのですが、



2023年にNZを襲った台風「サイクロンガブリエル」によって、ワイナリーとブドウ畑が壊滅してしまいました。現在は、別のワイナリーで再び

ワインを造るべく頑張っているところです。NZは英国からの移民によって建国された国で、開拓使によって発展した北海道と似ているところが多くあります。札幌出身の私もその開拓者魂で、台風被害に負けず新たなワイン造りを皆さんにお届けできるよう頑張っています。NZの魅力は、伝統に縛られることなく自由にワイン造りができるところです。世界中から人々がワインを造りにやってきました。その中で切磋琢磨しながら良いワインを造れるようこれからも努力していきます。



下記のSNSでフォローしていただくと励みになりますのでよろしくお願いいたします。

Facebook :

<https://www.facebook.com/shinobu.teraguchi.31>

Instagram:

[https://www.instagram.com/mutu\\_teraguchi/](https://www.instagram.com/mutu_teraguchi/)

## 畜大馬産業関係同窓会

同窓会副会長

南 保 泰 雄

(平成5年獣医)



令和6年1月13日(土)に、日高、胆振地区を主とする馬産業関係者による畜大同窓会が北海道新ひだか町静内のホテルエクリプスで開催されました。馬産業には、競走馬生産育成牧場をはじめ、獣医師や装蹄師、普及員、研究者として日頃活躍されている畜大同窓生が多数おります。今回のように同じ馬産業に関わっている者が一同に集まる同窓会としては初めての開催となり、JRA日高育成牧場の頃末憲治様(H7V卒)の開催にむけたご尽力により、総勢48名の参加がありました。

長澤学長は、あいにく、1月13・14日の大学入学共通試験実施本部長の任務のため欠席となりましたが、この日のためにご用意いただいた



ビデオメッセージが会場で放映されました。その中で、我が国唯一の国立農学系単科大学の卒業生・修了生が馬産業に貢献できるよう、馬に関する教育研究を提供し、これまで以上に「馬に関わる取り組み」を進めることに触れ、参加者も大いに喜ばれました。

同窓会は、日高軽種馬農業協同組合長 古川雅且様(S52V卒)のご発声によりはじまりました。会場では学長より差し入れとして碧雲蔵で醸造された「碧雲」「萌宥」をいただきました。また、参加者からの提供品による豪華景品ビンゴ大会も実施され、会を大いに盛り上げました。会の締めは、本学吉田定弘様(S52E卒)の音頭で逍遙歌の大合唱の後、沖田正憲様(S47V卒)の閉会挨拶、万歳三唱で成功裏に終わりました。



ここ数年の競馬産業の発展は目覚ましく、それを支える軽種馬生産育成産業の関係者が畜大同窓という輪により結ばれたことは非常に意義深いことであると思われまます。

本学では令和5年度より、地方競馬全国協会による

馬人材育成体制整備事業のもと、馬厩舎の新築が開始され、来年より総合ウマ科学教育プログラムが立ち上げられる運びとなります。本会の同窓会は、これらの事業の推進にむけ、インターンシップ実習の受入依頼をはじめ、馬産業の各方面で活躍されているOB、OGへご協力を賜りたく、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



## チーズ屋はじめました。

スイミー牛乳店  
水門輝美  
(平成11年別科)



人生における大切なことは、だいたい帯広で学びました。と言ってもまだ道半ば、むしろがむしゃらに足掻いている最中であり、客観視できる状況ではありません。よって徒然なるままに、脱サラ起業に至った経緯を寄稿すれば良いのかなと筆を進めます。

入学と同時に、創部間もないカヌー探検部に入部しました。激流で、技を繰り出す競技カヌーです。学生生活はカヌーに明け暮れた仲間との日々でした。平日は日の出とともにいそいそと朝カヌー（札内川・戸蔭別川・拓成湖・歴舟川）、放課後カヌー（畜大西側に沿って流れる売買川・十勝川）、週末はカヌーツーリング（空知川・幾春別川・千歳川・たまに海・洞窟）等々。疑うことを知らない10代の私たちは、部創設者の「実力を見極め、身の安全を確保したうえで自分のルートを決めろ」という探検のハウツーを刷り込まれ、取り憑かれた様にパドルを漕ぐ毎日でした。刷り込みは、使い様によって善し悪しを分けますよね。これが人生の指針になるとは。

さすがにこのままではロクな大人にならないと不安を覚え、手に職をつけねばと休学し英国でチーズ製造の職を得ました（文章に飛躍がありますが文字数に制限があるため、以降含め詳細は割愛します）。帰国後は復学→卒業し、20代は国産チーズ製造者として従事

します。その後貿易商社に転職し、チーズや乳酸菌等の輸入販売を行う企業に於いて開発営業を10年間の会社員生活。カヌーばっかやってないで、ちゃんと勉強しとけばよかったと教科書を引っ張り出しながら思ったのはこの頃です。商人の尊さに喜びを見出したものの、ハッピーには思えない10年先が見えてしまった事に危機感が募り、「社内より乳業界で生き残ろう」と決意します。

地元神戸で乳製品製造・販売業を開業したのは7年前です。地域密着を望み、下町商店街で発酵乳とウオッシュチーズを販売しています。小さな店舗で機嫌よく自営しています。良質の生乳を生産する酪農家さんと出会う天運に恵まれた事が、続ける1つの支えとなっています。取引先や研修で元畜大生と遭遇することも多々ありますが、派閥はおろか「奇遇だね」くらいの洒脱なタッチで、コネも何もない“らしさ”が心地いいです。

ワンオペ経営をしており、自分の責任と裁量でお客様との関係を築けている事に感謝しています。言っている内容とやっている事は学生の頃と変わらない点が少々気掛かりです。ほんのたまに、選んだ道はこれで良かったのかと思うこともあります。しかし川下りは不可逆なもので、選んだ道を正解にして行くしかないと邁進しております。つまり今も探検中です、秘境も人生も。私の生業が業界や世間の一助に寄与するのであれば、有難い。10年先はぼやけていますが、この先出現するであろう“荒波”にも、仲間との存在と知恵を頼りに乗り越えていけたらと思います。



### 共同獣医学課程卒業生の篠崎夏歩さんが 英国獣医師免許を取得しました

2023年3月に共同獣医学課程を卒業した篠崎夏歩さんが、2024年5月13日付けで英国獣医師免許を取得しました。

通常、日本の獣医師免許取得者が英国獣医師免許を取得するためには、英国獣医師協会の獣医師資格認定試験を受験し、合格する必要があります。本学の場合、EAEVE（欧州獣医学教育機関協会）の獣医学教育国際認証を取得した2020年3月以降に共同獣医学課程を卒業した学生は、獣医師資格認定試験の受験が免除されます。篠崎さんはこの枠組みを活用した、本学で初めての資格取得者となりました。

篠崎さんからのコメントは以下のとおりです。

「2023年に帯広畜産大学の共同獣医学課程を卒業しました、篠崎夏歩です。私は在学中に寄生虫病に関する研究を行ったことがきっかけとなり、公衆衛生と人獣共通感染症についてもっと学びたいと考えるようになりました。卒業後はマヒドン大学熱帯医学部（タイ）でのインターンを経て、現在ロンドン大学衛生熱帯医学大学院（イギリス）で公衆衛生学の勉強をしております。イギリスで勉強する中で英国獣医師免許の取得に意欲が湧いたので手続きを進めておりましたが、EAEVE 認証を活用してこのたび無事に取得することができました。今後はOne Health アプローチに基づく人獣共通感染症対策に焦点を当てて、ヒトと動物の健康を守ることに貢献したいと考えております。日本人の獣医師として、後輩の皆さんの選択肢を増やすきっかけになれば幸いです。」

日本から遠く離れた地での篠崎さんの活躍が期待されます。



▲篠崎さん(ロンドン大学衛生熱帯医学大学院前)

### 学生寄宿舎に冷房設備が寄贈されました ～感謝状贈呈式を開催～

橋本総業ホールディングス株式会社より、本学学生寄宿舎に冷房設備を寄贈していただき、5月7日（火）に代表取締役社長の橋本政昭様に感謝状を贈呈しました。

贈呈式では、長澤学長から感謝状が贈られた後、橋本社長から「有効に活用して生懸命勉学に励んでほしい。また、産学連携についても引き続き協力していきたい」と述べられました。

続いて、学生寄宿舎の寮生を代表して寮長の川口永遠さん、副寮長の古賀郁さんから「近年の夏場は、北海道でも夏日を超える日もあり、冷房設備は長らく切望されておりました。今回の寄贈により、寮生活を快適に過ごせると思うので、勉学に励み地域に貢献できる人材になることで、恩返ししたい」と感謝の言葉を



▲長澤学長と橋本社長(左から)

伝え、学生から橋本社長へ「学生による酒造りプロジェクト」で造られた日本酒が贈られました。

最後に、長澤学長から学生へ「快適な環境を提供して下さった感謝の気持ちは、後奎へ代々受け継いでほしい。勉強だけでなく、友人と語り合う場所でもあると思うので有効に活用して、大事に使ってほしい」と述べられ、贈呈式が終了しました。



▲川口さん、橋本社長、古賀さん(左から)

## 歌人時田則雄氏へ感謝状を贈呈

12月13日（水）に、歌人時田則雄氏（昭和42年別科）より本学に自身の著書全24冊が寄贈され、長澤学長から感謝状を贈呈しました。

時田氏は、別科（草地畜産専修）の同窓生であり、修了後に就農され、農業を営みつつ文筆活動にも取り組まれ、これまで角川短歌賞、読売文学賞や芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞されました。寄贈された著書は本学附属図書館に設置された特設コーナーにて紹介されており、学生を含め一般利用者にも貸し出しを行っています。



# 事務局だより

## 同窓会ホームページのリニューアルについて

昨年お知らせしたように、同窓会支援室の協力を得ながら、これまでの帯広畜産大学同窓会ホームページを大学のホームページ内に移植し、リニューアルしました。今後は、帯広畜産大学同窓会の活動等について、新たなホームページにてお知らせいたします。新しい帯広畜産大学同窓会のホームページは以下の URL からご覧ください。

帯広畜産大学同窓会  
<https://www.obihiro.ac.jp/dousoukai>

使用していただくためにも使っていただいた場合にはできるだけきれいに使っていただくようお願い申し上げます。

問い合わせ先 企画総務課総務係 ☎0155-49-5216  
 soumu@obihiro.ac.jp  
 (平日 8:30-17:15)

## 同窓会からのお願い

同窓会のホームページのリニューアルに伴い、「同窓会からのお知らせ」では各支部同窓会開催の案内に加え、今後は同期会の案内も含めて、掲載を広げることと考えております。アフターコロナで各支部同窓会の活動も徐々にではありますが、活動が再開しつつありますので、支部同窓会や同期等の開催告知などがありましたら、事務局にお知らせいただければホームページに掲載いたします。現在は、兵庫県支部総会の開催案内を掲載しています。秋から冬に向けて開催予定のある支部の方々やホームカミングデーに合わせた同期会等の案内なども歓迎いたします。開催案内以外にも開催報告も掲載しますので、よろしくお願ひします。

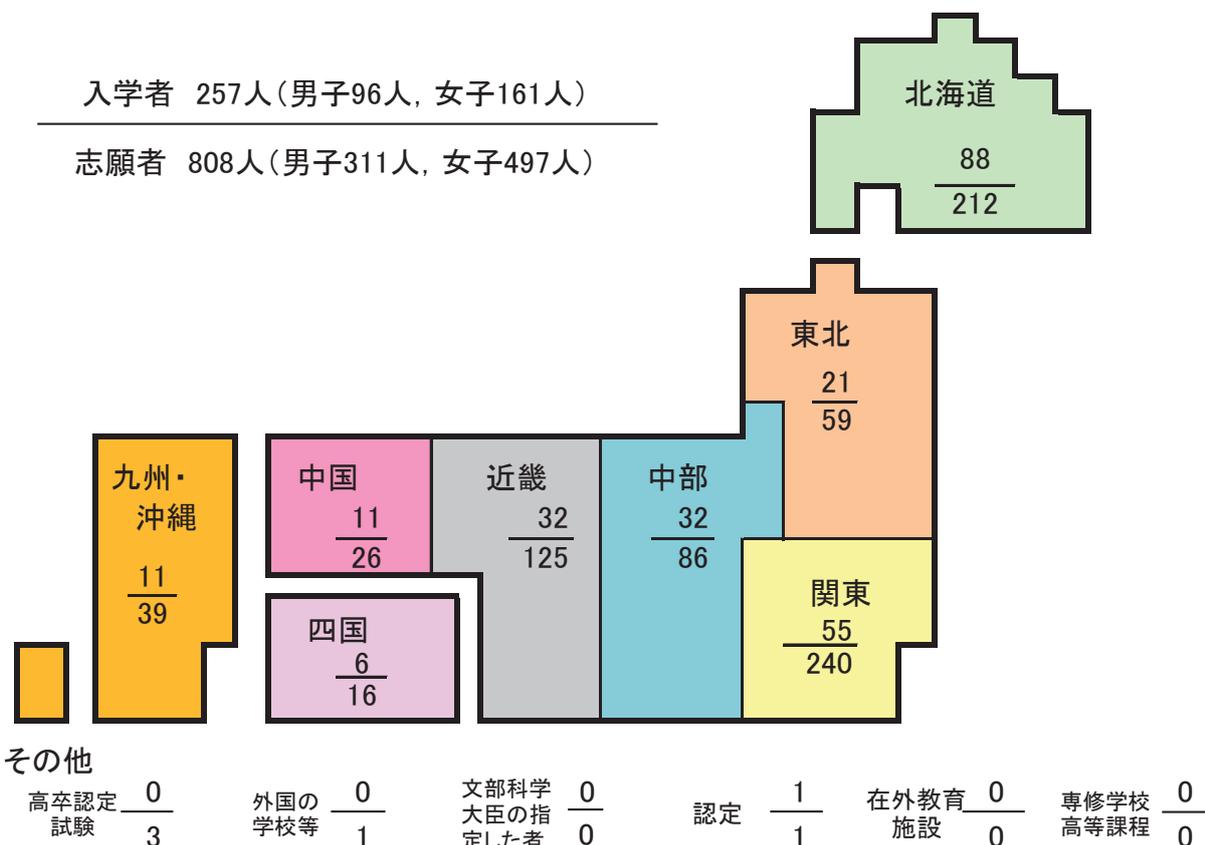
## 逍遙舎の使用について

「逍遙舎」は、同窓会、職員、学生が相互の懇親などの交流の場として使用できます。利用を希望される方は、大学企画総務課にお申込みください。なお、逍遙舎で使っている机や椅子が汚れて、劣化もしているため、昨年度は、同窓会予算で椅子を更新し、今期は机の更新を予定しております。今後も逍遙舎を快適に

## ◆ 令和6年度学部地域別志願者・入学者状況

入学者 257人(男子96人, 女子161人)

志願者 808人(男子311人, 女子497人)



## 訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。[敬称略]

前川 秀雄 (S46年 農業工学科)	松原 武司 (S42年 農業工学科)	由佐 壽朗 (S41年 農産化学)
眞鍋 勇 (S25年 農専農芸化学科)	堀内 喜博 (S52年 草地学科)	楠原 征治 (S40年 獣医学科)
端 俊一 (旧教員)	佐々木 康三 (旧教員)	務台 方彦 (S18年 高等獣医)
福原 義隆 (S38年 酪農学科)	松岡 栄 (S41年 酪農学科)	高幡 昭一 (S31年 酪農学科)
川岸 聖樹 (S52年 草地畜産専修)	田島 富雄 (S47年 獣医学科)	荻原 訓 (S42年 酪農学科)
須藤 四郎一 (S28年 酪農学科)	斉藤 健一 (S47年 獣医学科)	大出 光 (S43年 獣医学科)
井戸井 勲 (S33年 総合農学科)	牧野 通幸 (S48年 別科)	渡辺 紀元 (S40年 総合農学科)
伊藤 稔 (S30年 総合農学科)	小鹿 豊彦 (S50年 酪農学科)	
山本 雅昭 (S53年 獣医学科)	川原 勝則 (S57年 経営)	
伊藤 馨 (S31年 獣医学科)	北村 統吾 (H2年 環境)	
越田 泰彦 (S33年 総合農学科)	青木 章司 (S31年 酪農学科)	
月澤 雄一 (S18年 高獣獣医学科)	葛西 昭臣 (S23年 農専獣医)	
合田 勇太郎 (S30年 総合農学科)	佐々木 義明 (S25年 農専獣医)	
檜崎 昇 (S30年 酪農学科)	三浦 弘之 (S30年 酪農学科)	
村田 征一 (S36年 総合農学科)	井上 春夫 (S30年 獣医学科)	
山崎 史郎 (S36年 酪農学科)	竹田 芳彦 (S51年 草地学科)	
伊藤 富八 (S43年 農産化学)	佐藤 幸弘 (S41年 農産化学)	
外里 拓男 (S43年 農業工学科)	黒沢 慎治 (S41年 獣医学科)	
市野川 泰次 (S45年 農業工学科)	松本 昭政 (S25年 農専酪農科)	
小池 敏一 (S45年 別科)	小野 和弘 (S42年 獣医学科)	

\*2023年9月から2024年6月までに本部事務局にご連絡をいただきました。

## 編集後記

帯広畜産大学同窓会報第31号をお届けします。本年度は総会がない年となっています。本年度のホームカミングデーは10月12日(土)となりました。この会報に大学からのホームカミングデーのお知らせも同封されていますので、ご参加される方はご利用ください。昨年度より同窓会記載事項変更届に電子メールアドレスの記入のお願いをしていますので、まだの方は記入をお願いいたします。また、終身会費の欄で「納入済」の方はすでに終身会費を払っていただいておりますので、新たに終身会費をいただくことはありませんのでご注意ください。まだまだ不慣れで皆様にも迷惑をおかけするかもしれませんが、これからもご指導ご鞭撻どうぞよろしくお願いいたします。

(文責：島田謙一郎 (平成4年 家畜生産科学))

# 帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定  
平成5年10月16日改訂  
平成7年10月14日改訂  
平成9年10月18日改訂  
平成11年10月23日改訂  
平成13年10月6日改訂  
平成19年10月13日改訂  
平成25年10月5日改訂

## 第1章 総 則

- 第1条 本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 同窓会報の発行
  2. 同窓会名簿の管理
  3. 帯広畜産大学の後援
  4. その他本会の目的を達成するための必要な事業
- 第4条 本会の事務局は帯広畜産大学内に置く。

## 第2章 会 員

- 第5条 本会は次の会員を持って組織する。
1. 正会員
    - 1) 帯広畜産大学及びその前身の卒業生
    - 2) 帯広畜産大学畜産学専攻科、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
    - 3) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科及び岩手大学大学院連合農学研究科の修了生で本学の講座に所属したもの
    - 4) その他代議員会で認めたもの
  2. 準会員  
帯広畜産大学、大学院畜産学研究科、草地専修科、岐阜大学大学院連合獣医学研究科および岩手大学大学院連合農学研究科の学生
  3. 特別会員  
帯広畜産大学およびその前身の同窓生以外の教員
- 第6条 会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に速やかに通知しなければならない。
- 第7条 会員の除名および資格の喪失
1. 本会の名誉を傷つけたり、本会の目的に反した行為を行った会員は、代議員会の決議により、除名とする。
  2. 当該会員が死亡したときは、その資格を喪失する。

## 第3章 役 員

- 第8条 本会は帯広畜産大学長を名誉会長に推薦する。
- 第9条 本会は次の役員を置く。会長1名、副会長若干名、事務局長1名、庶務担当3名、会計担当3名、名簿担当3名および監事2名。ただし、会長が必要と認めた場合は役員を追加することができる。役員会は前記の役員で構成し、本会の日常的な運営にあたる。本会は役員会の推薦により顧問を置くことができる。
- 第10条 会長及び副会長は代議員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。その他の役員は役員会において会員中より選出し、代議員会の承認を受けるものとする。役員および代議員の任期は一期二年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないこととする。
- 第11条 会長は本会を代表し、会務を統理する。副会長は会長を

補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

- 第12条 事務局長は庶務担当役員と共に会務を担当する。
- 第13条 会計担当役員は会費を徴収し、本会の資産の管理と予算の適切な執行を担当する。
- 第14条 名簿担当役員は同窓会名簿の管理を担当する。本役員は名簿の編集の円滑化を計るため、名簿編集委員を委嘱することができる。
- 第15条 監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。
- 第16条 役員会は会長が召集しその議長となる。本会は構成役員の過半数の出席で成立し、会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。
- 第17条 役員会は支部等から若干名の代議員を委嘱し、重要な会務を審議するために役員と代議員とで構成する代議員会を置く。
- 第18条 代議員会は会長が召集しその議長となる。代議員の3分の2以上の署名により会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は代議員会を招集しなければならない。代議員会は構成員の過半数（委任状を含む）で成立し、議事は過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第19条 代議員会は次の事項を審議する。
1. 予算及び決算
  2. 会費の変更
  3. 重要な資産の処分
  4. その他の重要な事項

## 第4章 総 会

- 第20条 総会は通常総会と臨時総会とする。通常総会は原則として隔年で開催するものとする。臨時総会は代議員会において必要と認めるとき、または10分の1以上の会員の署名により会議の目的事項を示して請求があったときこれを開くこととする。
- 第21条 総会は会長が招集し、その議長は会員中より総会で選出する。
- 第22条 次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。
1. 会則の変更
  2. 役員人事
  3. 資産目録
- 第23条 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第24条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。

## 第5章 資産及び会計

- 第25条 本会の重要な資産を処分するには、代議員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。
- 第26条 会員は終身会費として入学時に20,000円を納めなければならない。但し、特別会員は会費を免除する。なお、準会員については、何らかの事情で中途退学した場合、本人からの請求があれば返金するものとする。
- 第27条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

## 第6章 支 部

- 第28条 本会はその目的を達成するために、必要があるときは支部を設けることができる。
- 第29条 支部を設置しようとする者は、その代表者から支部会則、役員等の資料を添えて本会に届け出なければならない。なお、支部活動については、支部会にゆだねるものとする。

付 則 この会則は平成25年10月5日から施行する。